

1999年以来18年ぶりに紀尾井ホール登場のロシアの巨匠ピアニスト、**エリソ・ヴィルサラージェ**と、世界的権威であるロンドン国際弦楽四重奏コンクールで第1位獲得後、一気に国際舞台へ躍り出た、現在最も勢いのあるカルテット、**アトリウム弦楽四重奏団**。

この秋大注目の初共演が11月28日、紀尾井ホールで実現します。



©Nikolai Puschilin

エリソ・ヴィルサラージェ、 熱き精神のリレー

青澤隆明 / 音楽評論家

この夏、霧島国際音楽祭で、エリソ・ヴィルサラージェに再会した。マスタークラスの時間をはるかに超過して、厳しく、しかし親身に生徒を指導する姿に打たれた。若者たちに囲まれる彼女は、とてもいきいきとしている。独自の芸術家としての厳格な姿勢と生来の人間好きとが裏表なく、率直に繋がっているのが眩しい。

さて、幼少の頃からロシア・ピアニズムのさまざまな巨星に学んできたヴィルサラージェにとっても、今年で没後20年となるスヴャトスラフ・リヒテルとの交友はかけがえのないもので、「仕事に対する真摯な態度、芸術家という職業に対する誠実さ」のお手本となったと言う。リヒテルが若い才能を励まし、支援していたことと、ヴィルサラージェの音楽祭や教育、なにより室内楽での実践はやはり美しく繋がっているようにみえる。

この秋、アトリウム弦楽四重奏団との初めての共演も、そうした精神のリレーを熱い響きで交わす充実した対話の機会となるだろう。「まず、人間的に素晴らしい関係ができなくてははいけません。嫌いな人との共演では絶対に良いものはできない。だから、イリュージョンでもいいから、共演するひとたちのことは好きでなくてははいけませんね」とヴィルサラージェは微笑む。

「彼らの演奏を聴いて、とても気持ちのいい印象を受けたので、ショスタコーヴィチとシューマンをやることにしました。とても生き生きとしていて、面白く演奏できるだろうな、と感じさせてくれたから。弦楽四重奏団のなかにはきれいに正しく演奏して、どしんと安定しているけれど、いざ模様替えしようとするとき非常に動かしづらい大きなタンスみたいな感じの人たちもいます(笑)。彼らの印象はもちろん違って、とても柔軟に対応してくれるのではないかという、そういう機敏さを感じました」。

2つの五重奏曲だけでなく、モーツァルトのト短調のピアノ四重奏曲も加えて演奏されるというから、新たな出会いへの期待も大きいに違いない。世代を超えたアンサンブルの魅力をどっぷりと堪能したい。

Mitsubishi Corporation Presents

エリソ・ヴィルサラージェ & アトリウム弦楽四重奏団

2017年11月28日(火) 19時開演  紀尾井ホール

モーツァルト	ピアノ四重奏曲第1番ト短調 KV478	S席	9,000円
ショスタコーヴィチ	ピアノ五重奏曲ト短調 Op.57	A席	7,000円
シューベルト	弦楽四重奏曲第12番ハ短調「四重奏断章」 D703	学生A席	2,000円
シューマン	ピアノ五重奏曲変ホ長調 Op.44	ペアS席	17,000円
		友の会ペアS席	16,000円

※アトリウム弦楽四重奏団 第1ヴァイオリンのセルゲイ・マーロフは、ボリス・プロフツィンに変更となります。何卒ご了承ください。

ご予約
お問合せ

紀尾井ホールチケットセンター ☎ 03-3237-0061 (10時~18時/日・祝休)
紀尾井ホールウェブチケット <http://www.kioi-hall.or.jp>



主催：公益財団法人 新日鉄住金文化財団 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 協賛：三菱商事株式会社